

# 産地、時期を刻印 回収率アップ

東京海洋大学の研究者が開発したアノビの生産履歴タグ「アバロン」の販売が三年間で百四十万個を超えた。今年から、成長したタケノコタノビの回収率が本格化する。食の信頼が揺るぐ中、おいしくアノビを食卓に届け、横行する密漁から漁師らを救う一手となる。



稚アノビの時に緑に取り付け(右下) 成長とともに定着するアバロン・タグ

「高額で取引されるアノビは暴力団の収益源。産地市場の三割は密漁アノビとみられます」アノビ研究四十年の東京海洋大客員教授、山川綾さん(左)は、熱っぽく調べる業者は恐れをなし、このま



アノビを回収する漁師ら(小池康之元東京海洋大客員教授撮影)

拒んで見せたのは、長さ一帯ほどの金属タグ。放流する稚魚の縁に挟むと二十日ほど殻に閉じ込み、七けたの刻印などで産地や放流時期を特定する。同大学と連携した特定非営利活動法人（NPO法）人がタグ情報を管理、行政と協議して産地に資源管



タグ・バロン・アプは放流時期や産地を印し取り付けた

# 履歴タグリ アプビ守れ

まではアプは先細る。理方法も提案する。密漁を阻止したいと開発したアプは、北海道と、九〇年代後半からタグ

たのかれです。拒んで見せたのは、長さ一帯ほどの金属タグ。放流する稚魚の縁に挟むと二十日ほど殻に閉じ込み、七けたの刻印などで産地や放流時期を特定する。同大学と連携した特定非営利活動法人（NPO法）人がタグ情報を管理、行政と協議して産地に資源管

から九州までの沿岸に広く分布。主に産地の壱三セクタリや漁業組合が生産した稚魚を漁師らが買い取って放流し、二五年後に出荷する。最盛期の一九〇年代には約千四百あったが、近年は三分の一の千台まで減った。減った理由の一つが密漁だ。宮城県漁協北上町十三浜吉所運営委員長の佐藤清吾さんによると、周辺石巻地域の十数グループ、二百人以上の密漁者が暗躍。海上保安庁や警察と協力しては毎晩、監視船を出すが、現場を押さえるのが難しく防ぎきれない。一つの密漁団で年間数億円を荒稼ぎするとい、密漁対策には国や自治体との層の連携が欠かせない。全国的には沿岸開発による海面上昇は餌となる海藻類の枯死（磯焼け）や、薬合する魚類などの異常繁殖につながる。石巻など北の漁場では低水温による稚魚の死滅も深刻で「安い韓国の養殖ものも普及し、アプは漁は風前のともじり。子どもともに続けと言えない」と佐藤さんは嘆く。山川さんは密漁対策に



「日本のアプは外国産に少ない」と話す山川純客員教授

「日本のアプは外国産に少ない」と話す山川純客員教授は、主に放流したアプの産地側のタグ購入の狙い販売を始めた。〇四年から一個約十五円で回収率は平均10〜20%と低く、漁場によるばらつきが大きい。購入した三重県栽培漁業センターは「どの漁場で効果よくアプが回収できるかわかる」と期待。若手県水産振興課も「県内で年間八百万個放流しても、回収は一割程度。適さない漁場を把握したい」と話す。一方、密漁対策にどの役立つかは今後の課題だ。山川さんは「密漁アプを流通段階で見つけ、販路をたどれば、密漁者つながる情報が得られる。韓国などの養殖アプとも区別でき、消費者は安心して食べられる」と力説する。アプは平安期には朝廷や神社への貢ぎ物として珍重されてきた。中国の宴会で供されるアプの大半はタグを示し、日本産しアプは一個三万円の高値がつくこともあるという。

## 漁獲量低下「密漁防止に」と開発

「日本のアプは外国産に少ない」と話す山川純客員教授は、主に放流したアプの産地側のタグ購入の狙い販売を始めた。〇四年から一個約十五円で回収率は平均10〜20%と低く、漁場によるばらつきが大きい。購入した三重県栽培漁業センターは「どの漁場で効果よくアプが回収できるかわかる」と期待。若手県水産振興課も「県内で年間八百万個放流しても、回収は一割程度。適さない漁場を把握したい」と話す。一方、密漁対策にどの役立つかは今後の課題だ。山川さんは「密漁アプを流通段階で見つけ、販路をたどれば、密漁者つながる情報が得られる。韓国などの養殖アプとも区別でき、消費者は安心して食べられる」と力説する。アプは平安期には朝廷や神社への貢ぎ物として珍重されてきた。中国の宴会で供されるアプの大半はタグを示し、日本産しアプは一個三万円の高値がつくこともあるという。

「日本のアプは外国産に少ない」と話す山川純客員教授は、主に放流したアプの産地側のタグ購入の狙い販売を始めた。〇四年から一個約十五円で回収率は平均10〜20%と低く、漁場によるばらつきが大きい。購入した三重県栽培漁業センターは「どの漁場で効果よくアプが回収できるかわかる」と期待。若手県水産振興課も「県内で年間八百万個放流しても、回収は一割程度。適さない漁場を把握したい」と話す。一方、密漁対策にどの役立つかは今後の課題だ。山川さんは「密漁アプを流通段階で見つけ、販路をたどれば、密漁者つながる情報が得られる。韓国などの養殖アプとも区別でき、消費者は安心して食べられる」と力説する。アプは平安期には朝廷や神社への貢ぎ物として珍重されてきた。中国の宴会で供されるアプの大半はタグを示し、日本産しアプは一個三万円の高値がつくこともあるという。

「日本のアプは外国産に少ない」と話す山川純客員教授は、主に放流したアプの産地側のタグ購入の狙い販売を始めた。〇四年から一個約十五円で回収率は平均10〜20%と低く、漁場によるばらつきが大きい。購入した三重県栽培漁業センターは「どの漁場で効果よくアプが回収できるかわかる」と期待。若手県水産振興課も「県内で年間八百万個放流しても、回収は一割程度。適さない漁場を把握したい」と話す。一方、密漁対策にどの役立つかは今後の課題だ。山川さんは「密漁アプを流通段階で見つけ、販路をたどれば、密漁者つながる情報が得られる。韓国などの養殖アプとも区別でき、消費者は安心して食べられる」と力説する。アプは平安期には朝廷や神社への貢ぎ物として珍重されてきた。中国の宴会で供されるアプの大半はタグを示し、日本産しアプは一個三万円の高値がつくこともあるという。

「日本のアプは外国産に少ない」と話す山川純客員教授は、主に放流したアプの産地側のタグ購入の狙い販売を始めた。〇四年から一個約十五円で回収率は平均10〜20%と低く、漁場によるばらつきが大きい。購入した三重県栽培漁業センターは「どの漁場で効果よくアプが回収できるかわかる」と期待。若手県水産振興課も「県内で年間八百万個放流しても、回収は一割程度。適さない漁場を把握したい」と話す。一方、密漁対策にどの役立つかは今後の課題だ。山川さんは「密漁アプを流通段階で見つけ、販路をたどれば、密漁者つながる情報が得られる。韓国などの養殖アプとも区別でき、消費者は安心して食べられる」と力説する。アプは平安期には朝廷や神社への貢ぎ物として珍重されてきた。中国の宴会で供されるアプの大半はタグを示し、日本産しアプは一個三万円の高値がつくこともあるという。

「日本のアプは外国産に少ない」と話す山川純客員教授は、主に放流したアプの産地側のタグ購入の狙い販売を始めた。〇四年から一個約十五円で回収率は平均10〜20%と低く、漁場によるばらつきが大きい。購入した三重県栽培漁業センターは「どの漁場で効果よくアプが回収できるかわかる」と期待。若手県水産振興課も「県内で年間八百万個放流しても、回収は一割程度。適さない漁場を把握したい」と話す。一方、密漁対策にどの役立つかは今後の課題だ。山川さんは「密漁アプを流通段階で見つけ、販路をたどれば、密漁者つながる情報が得られる。韓国などの養殖アプとも区別でき、消費者は安心して食べられる」と力説する。アプは平安期には朝廷や神社への貢ぎ物として珍重されてきた。中国の宴会で供されるアプの大半はタグを示し、日本産しアプは一個三万円の高値がつくこともあるという。

「日本のアプは外国産に少ない」と話す山川純客員教授は、主に放流したアプの産地側のタグ購入の狙い販売を始めた。〇四年から一個約十五円で回収率は平均10〜20%と低く、漁場によるばらつきが大きい。購入した三重県栽培漁業センターは「どの漁場で効果よくアプが回収できるかわかる」と期待。若手県水産振興課も「県内で年間八百万個放流しても、回収は一割程度。適さない漁場を把握したい」と話す。一方、密漁対策にどの役立つかは今後の課題だ。山川さんは「密漁アプを流通段階で見つけ、販路をたどれば、密漁者つながる情報が得られる。韓国などの養殖アプとも区別でき、消費者は安心して食べられる」と力説する。アプは平安期には朝廷や神社への貢ぎ物として珍重されてきた。中国の宴会で供されるアプの大半はタグを示し、日本産しアプは一個三万円の高値がつくこともあるという。

「日本のアプは外国産に少ない」と話す山川純客員教授は、主に放流したアプの産地側のタグ購入の狙い販売を始めた。〇四年から一個約十五円で回収率は平均10〜20%と低く、漁場によるばらつきが大きい。購入した三重県栽培漁業センターは「どの漁場で効果よくアプが回収できるかわかる」と期待。若手県水産振興課も「県内で年間八百万個放流しても、回収は一割程度。適さない漁場を把握したい」と話す。一方、密漁対策にどの役立つかは今後の課題だ。山川さんは「密漁アプを流通段階で見つけ、販路をたどれば、密漁者つながる情報が得られる。韓国などの養殖アプとも区別でき、消費者は安心して食べられる」と力説する。アプは平安期には朝廷や神社への貢ぎ物として珍重されてきた。中国の宴会で供されるアプの大半はタグを示し、日本産しアプは一個三万円の高値がつくこともあるという。

「日本のアプは外国産に少ない」と話す山川純客員教授は、主に放流したアプの産地側のタグ購入の狙い販売を始めた。〇四年から一個約十五円で回収率は平均10〜20%と低く、漁場によるばらつきが大きい。購入した三重県栽培漁業センターは「どの漁場で効果よくアプが回収できるかわかる」と期待。若手県水産振興課も「県内で年間八百万個放流しても、回収は一割程度。適さない漁場を把握したい」と話す。一方、密漁対策にどの役立つかは今後の課題だ。山川さんは「密漁アプを流通段階で見つけ、販路をたどれば、密漁者つながる情報が得られる。韓国などの養殖アプとも区別でき、消費者は安心して食べられる」と力説する。アプは平安期には朝廷や神社への貢ぎ物として珍重されてきた。中国の宴会で供されるアプの大半はタグを示し、日本産しアプは一個三万円の高値がつくこともあるという。